

令和5年度 学校評価総括表（大俣小学校）

1 学校教育目標 人間尊重の精神を基盤にし、一人一人に応じた生きる力の育成を図り、ふるさとを愛する心身ともにたくましい子どもを育てる。

2 重点目標 (1) 「気づき・考え・行動し、話し・伝える」児童の育成 (2) 「個別最適で協働的な学びの充実」に向けての授業改善 (3) 「地域の学校」として信頼される学校づくり (4) 教職員の協働した教育活動の推進

3 総括表 評価規準 S:大変よくできている A:よくできている B:できている C:努力がいる D:大変努力がいる

領域	評価項目		自己評価		次年度への改善点等	学校関係者評価		
			考察（成果と課題）	評価				
学校経営	経営方針	学校経営方針の周知	「学校は、学校教育目標に向かって努力している」という設問に対して約91%の保護者が肯定的に回答している。学校経営方針は、校長室だけでなく職員室のコピー機前にも掲示したところ、「コピーをしながら確認できてよい」という教職員の声があった。よりよい学校経営のために、教職員がベクトルを合わせるとともに、保護者への周知は欠かせない。引き続き学校経営方針の周知に尽力したい。	A	B	教職員間の共通理解を徹底し、保護者だけでなく、地域にも学校経営方針を周知できるよう取り組んでいく。	A	A
	開かれた学校	保護者・地域への情報発信・連携	「学校での様子や教育活動などを、懇談や学級だより、ホームページなどによって知ることができる」と回答した保護者は約90%である。教職員の約95%は学級経営方針や学級の様子を保護者に伝えている。メール配信を増やすことで、より迅速に情報を発信することができた。また、「よく分かる大俣小学校!!」を作成し、配付等を行った。	A		引き続き、学校の様子や教育活動などをこまめに発信していく。	A	
	学級経営	一人一人を大切にす学級経営の実践	児童の約92%が「学校が楽しい」と答えているが、「楽しくない」と答えている児童もいる。また、教職員の約89%が「楽しい学級・学校・授業づくり」に努めているが、「十分ではなかった」と回答している者もいる。学級担任自ら学級経営を振り返り、全ての児童が楽しい学級にするための方策を考える必要がある。	B		児童の100%が「学校が楽しい」と答えられるように、学級目標を設定し、PDCAサイクルで学級経営に臨む。	A	
	教職員の資質向上	授業力・組織力の向上	90%以上の児童が「授業はよく分かる」と回答している。教職員は、学校全体で共通理解した授業規律の指導や、一人一台端末を活用しての個に応じた指導に努めている。今年度も、教員の「授業力向上WEEK」を実施し、互いの授業を見せ合うことで、授業力向上を目指した。また、「主体的対話的な学び」に向けて、授業改善にも取り組んでいるところである。組織力については、全教職員が「校務分掌は適切で、協働できている」と回答している。日常の対話を大切にしてきた成果であると考え。	B		研究授業だけでなく、互いの授業を見せ合う「授業力向上WEEK」を充実させることで、授業改善を推進し、個々の授業力とチームとしての組織力を向上させる。	A	
	環境整備	安全で美しい環境の整備	毎月の学校安全の日に安全点検を行い、危険箇所や修繕箇所については、迅速に対応した。清掃時には、児童と教職員がともに活動することができた。秋の愛校奉仕作業には、全家庭から1~2名の参加があり、環境整備に努めてくださった。校庭や運動場の樹木を剪定・伐採していただいたおかげで、職員室から運動場の様子が一目で分かるようになった。	A		教職員と児童だけでなく、保護者や地域の方々とともに、引き続き、安全で美しい学校になるよう努める。	A	
	業務改善	働き方改革の推進	学校の働き方改革推進の必要性について、保護者の約82%が理解している。しかし、「わからない」と回答している方が約10%いることから、保護者への広報を工夫する必要がある。教職員は「働いている全ての人が尊重され認められている」の設問に全員が肯定的な回答であったが、働き方についての意識改革は十分ではないと考える。	B		学校の働き方改革についての必要性を学校だより等で発信していく。教育活動に進取の気性で取り組んでいく。	B	
教育活動	学力向上	基礎基本の充実 学習意欲	授業中に集中して話を聞くことができている児童は約82%であるが、自分の考えを発表している児童は約73%である。「授業規律を徹底できるように指導している」教職員は約89%である。また、保護者は「学校は、子供の実態を踏まえ、学力向上を目指して指導している」に約85%が肯定的な回答であった。しかし、家庭では「学習する習慣が身に付くような働きかけをしている」に「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した保護者は約75%であった。学校と保護者が協働して児童の学習意欲を高め、学力向上に取り組む必要がある。	B	B	話の聞き方は定着してきたので、自分の考えを表現する機会を増やしていく。一人一台端末や思考ツールを活用して、児童が主体的・協働的な学習に取り組めるようにする。家庭学習にも主体的に取り組める工夫改善をする。	A	A
	心の教育 (人権教育)	人権尊重の精神の育成 いじめ防止	保護者の約90%は「学校は、子供たちに生命を大切にす心や人権を尊重する意識や態度を育てようとしている」と答えている。児童は「自分はいじめや差別のない学校や学級にしようとしている」と答えた児童は約88%である。「わからない」と回答した児童が3名「あてはまらない」が2名いて、人権意識の涵養が求められる。教職員は全員が「差別・いじめを許さない人権教育に努めている」と回答しているため、それぞれの差を縮めていかなければならない。	B		いじめ防止子供委員会の活動を活発化する。また、アンケート等からの情報を教職員間で共有し、いじめを許さない学校づくりに努める。	A	
	生徒指導	望ましい生活習慣の育成	「お子様は、家庭でルールやマナーを守り、規則正しい生活を送っている」と回答した保護者は約77%である。「ゲームや動画視聴、インターネットの時間を決めてしている」と答えた児童は約75%であり、メディアを使うときのルールを作り守ることができていない児童が多い。学校では、PBS（ポジティブな行動支援）を推進し、基本的な生活習慣を定着させる指導を続けてきた教職員が約79%である。教職員のPBSに対する意識を高め、児童の望ましい生活習慣育成につなげていきたい。	B		「ノーメディアデー」の見直しと教職員の共通理解を図る。また、情報モラル教育、PBSについての校内研修の充実を図るとともに、家庭への情報提供や協力依頼を継続して行う。	A	
	健康・体力づくり	基本的な生活習慣の確立 運動習慣の定着	「朝食を食べている」児童は約94%で、保護者の数値と一致している。長期休業日中も、平均的には「早寝早起き朝ごはん」の生活習慣を保持できている。また、保護者の約94%は「学校は、外遊びや体育の授業を通して、体力向上を目指して指導している」と回答している。しかし、「元気に遊んだり運動をしたりしている」と答えた児童は約77%であり、「体力向上を図る指導をしている」と肯定的な回答をした教職員は約79%である。業間休み（30分）昼休み（25分）を有効に使えるように、教職員の声かけも必要である。	B		個人懇談等の機会に、望ましい生活習慣について保護者に伝えていく。体育の時間に運動量を確保したり、外遊びや徒歩での通学を奨励したりする。	A	
	家庭・地域教育	家庭・地域教育力の向上	保護者の学校行事への参加並びに担任との連携は約93%と高い。また「学校は、地域や家庭と力を合わせて、子供の教育を進めている」という設問にも約93%の保護者が肯定的に回答している。学校では、地域の方々や関係機関と連携しながら教育活動を進めている。本校教育活動に理解、協力を惜しまず、体験活動も充実させてくださっている。	A		保護者や地域と課題を共有する場を設定し、協働して課題解決に取り組んでいく。	A	

◆学校運営協議会委員からのご意見

- ・情報発信がよくできている。
- ・環境整備については、地域との共同作業も考えてよいのではないだろうか。
- ・人間性の教育は難しいが、引き続き心の教育（人権教育）の充実を図ってほしい。
- ・少子化に対応した学校経営の在り方を市全体で話し合っていくことが、必要になってきたのではないだろうか。